

## 第 1 回草津市中学校スクール検討委員会 議事概要（論点整理）

## 草津市中学校給食・スクールランチ（配食サービス）調査・検討業務結果報告について

- ・委員から 12 ページ下の「本市全体で家庭弁当を持参しにくい生徒は 50 人」とはいつのデータかと質問があった。
- ・事務局より、アンケート調査については昨年 12 月の中旬に小学 6 年生の子どもと保護者、中学 1 年生の生徒と保護者および中学校の教職員に実施、その時点で把握したデータと回答。
- ・委員長より、平成 20 年度に検討されたときの数字（28 人）についての確認があった。
- ・委員から「持参しにくい子」についての定義についての確認があった。
- ・事務局から説明。細かく定義を行っていないので、とらえ方にばらつきはあるかもしれません。「学級担任の先生方に弁当を持参しにくい生徒は何人いますか。」という聞き方になる旨説明。
- ・委員長から平成 20 年度の検討委員会のときに出てきていた数字も今回の調査結果の数字も教職員の方に聞いて、教職員の方の答えた主観的な判断で積み上げた数でよいかという確認があった。
- ・事務局より補足。28 人が 50 人になっているのは、社会的な流入で生徒の数が増えているということで、家庭環境の部分についても若干の変化はあるかもしれません。
- ・委員より中学校の現状について説明。不審者対策やアレルギー対策について。
- ・委員から中学校でのコンビニの弁当についての質問。パンやおにぎりは大丈夫で、コンビニの弁当はだめだという話を子どもさんから聞いての質問。
- ・委員が自校の取り組みについて紹介とスクールランチに関しての感想。スクールランチに関しては、教師も食べている業者弁当なので、大人の食べるお弁当という感じで、「お弁当箱の形」などに抵抗があるように感じます。
- ・事務局からお弁当箱については、中学生向けのものにすることが効果的であるのであれば、そういった仕様で業者に委託する方法もあると説明。
- ・委員長よりコンビニの弁当の扱いについての確認。
- ・委員が生徒の現状説明。生徒の保護者とのコミュニケーションについて。
- ・委員より、年度の初めに来る案内文を見ての感想とお子さんからの会話について紹介。
- ・委員より、生徒の業者弁当に対する興味関心度合いについての感想。
- ・委員長から広報の仕方についての指摘。現在の保護者向けの案内文がいつごろどのような形で保護者に通知されているのか。通知以外の広報はどのようにされているか。
- ・事務局より 4 月当初に教育委員会から各中学校に案内したスクールランチの周知プリントについての説明および現行のスクールランチの位置づけについての補足を行った。
- ・委員長から業者弁当の配給元とその弁当の感じについての確認があった。
- ・委員から自校に入っている業者弁当、スクールランチについての生徒の感想等が聞けた。女子生徒は、量が少なく、見た目もかわいい入れ物などにこだわっています。利用している生徒に感想を聞いてみると、温かいご飯が食べられるのは良かったと言っており、保護者も喜んでいましたが、周りが利用していない中では、気楽には利用しにくいと思っていたかもしれません。
- ・委員が業者弁当代と生徒のパン代について質問。
- ・事務局や委員から現状の説明があった。
- ・委員より、どれくらい利用しやすくするのか。300 円くらいで当日の朝注文ができると利用率が上がりますが、先生方から見ると、利用しやすさをどのくらいにするのが、教育的には良いのかと質問があった。
- ・事務局から説明。例えば当日の注文を受け付けられるように担当の職員がいれば、当日受付が可

能となり、一校当たり30食といった最低の食数を発注があろうとなかろうと確保するという方法もあり、お金のかけ方によってどれだけ頼みやすいか、値段がどれだけ下げられるか、左右されてくる部分がある。現在の制度をもう少し利用しやすい方法にしようとする、市の税金をかけて委託費を出すということになり、お弁当をずっと持たせていただいている方々とのバランスも考えていく必要がある。

- ・委員より、守山市は地産地消を進めていて、「おうみんち」で完全に作られていて、価格は高いが地産地消の教育効果がある弁当になっているとの紹介があった。
- ・委員長より守山市の利用状況についての質問があった。
- ・事務局より説明。守山市は最低何食と決めておられるが、実績は草津市と変わらない。
- ・委員長より、生徒の食生活についての課題から、栄養の面と食育の面も考えてスクールランチを利用しやすくすることの必要性についての意見があった。
- ・委員からも生徒の生活と食生活について、家庭科の授業の様子について紹介があった。学びが生活に生かされる手立てが必要。
- ・委員から、最近、若い女性の摂取カロリーと筋力の衰えについての紹介があり、今後、中学生くらいの成長期に適正なカロリーをどのように摂取していくかが課題であるとの指摘があった。
- ・委員から、スクールランチを推進していきたいのか、お弁当を作れない保護者の救済のためだけのものなのか、また、利用するにあたっては食育についても重視したい。また、学校給食を復活させることが難しいのであれば、週に1回だけ給食にしてもらって、そこで食育の学習ができるように盛り込んでいくことも考えられる。救済のためのスクールランチではなくて、試食会などを通じて利用しやすいように工夫をして、みんなが食べられるようになる環境を整えていったほうが良いでしょう。
- ・事務局より説明。昨年度の調査をもとに事務局で考察を加えて、当面は現行のスクールランチの充実をするという方向性で考えています。小学校の給食センターを老朽化や処理食数の問題で建て替えをして、この4月からオープンをしたところであり、子どもの数も増えている中で、中学校の完全給食のために別のところに給食センターを建てることは、たちまちは無理であるので、当面は現行のスクールランチの充実という方向性を出しました。このことについて、この場で意見をいただいても困りますということではありませんし、給食の重要性に関する意見もいただきたいと思います。こういった方向性の中でスクールランチを推進して、充実や改善することの取りまとめが、議論していただきたいところがございます。その議論をするときに、食育の視点や地産地消の側面を含め、御意見をいただく中で良い制度の取りまとめをしていきたい。
- ・委員長より大津市のスクールランチの現状についての質問があった。
- ・事務局より、大津市のスクールランチの現状について説明。大津市や守山市の内容についても、参考にさせていただけるよう資料を集めて次回提示する。
- ・委員より現状で利用されているスクールランチのメニューは一般の会社に配達されているものと一緒のメニューなののでしょうか。それとも別に学校用に作られているのでしょうかと質問。
- ・事務局、一般のものと一緒にすと回答。
- ・委員から確認、学校用にメニューを作ってもらくと、1校当たり30食ないと採算が合わないということになるのですね。
- ・委員より過去在勤校での給食のあり方、その時の成果と課題についての紹介があった。
- ・委員長からも子どもの給食に入れてもらった時の紹介があった。
- ・委員からは栄養教諭としての視点からの意見があった。給食の場合、学級の人数によっても、準備と片付けの時間が違ってきます。また、小学生に比べて中学生は好き嫌いがはっきりしていて、残り方がはっきりとしており、徹底して食べていなかったりします。草津市が以前に給食を廃止

された経緯のところを見ていますと、難しい点もたくさんあるんだなと思いました。スクールランチに食育も含めていくというお話も出ていますが、お弁当を持ってきていない生徒だけではなくて、全ての生徒に知ってもらいたいことであるので、広くみんなが同じように受けてくれる形でないと、教育という意味ではもったいないと感じます。

- 委員長から給食に対する保護者への意見があった。
- 委員から、検討委員会の視点の確認があった。
- 事務局から、検討委員会の進め方についての確認を行った。例えば食育の観点から、お弁当を作っている御家庭への支援の部分も同時に行えるように、委託業者にお弁当レシピの提案と一緒に頼めれば両方の支援にもなりますし、そういう視点が必要ということであれば、整理をして検討していければと思います。
- 委員より検討委員会へのご示唆があった。こちらが何をしてほしいとお願いするかによって必要とされる数が違ってきて、30個くらいであれば、社会貢献として割り切って作ってくれる数だろうと思いますが。
- 委員よりお子さんとの会話の紹介があった。また、今後のスクールランチのあり方について意見があった。食育という意味であれば、月に1度や年に1度、スクールランチの日ということで、みんなで注文して、蓋を開けると栄養に関する情報が載っていたりするといった意見があった。